

出版文化の黎明期、
どのような本が刷られ、
読まれていたのか。

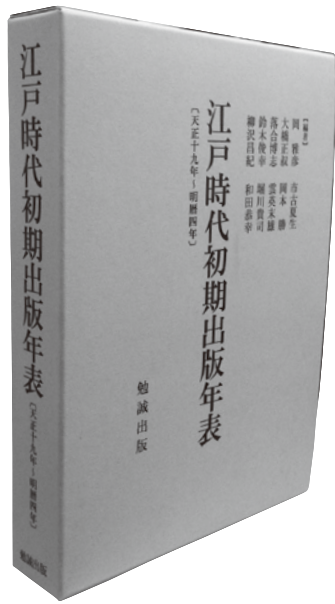
江戸文化を記憶し

今に伝える版本の情報を網羅掲載。

天正十九年(1591)〜明暦末年(1657)の
六十六年間に刊行され、刊記を有する
あらゆる分野における出版物の総合年表。
広大な江戸出版の様相を知る。

編集

岡 雅彦
市古夏生
大橋正叔
岡本 勝
落合博志
雲英末雄
鈴木俊幸
堀川貴司
柳沢昌紀
和田恭幸



本体25,000円(+税)

2011年3月刊行
B5判上製函入・712頁(うち、カラー口絵32頁)
ISBN978-4-585-10452-0 C3021

江戸時代初期出版年表

編集

岡 雅彦・市古夏生・大橋正叔・岡本 勝・落合博志・雲英末雄・鈴木俊幸・堀川貴司・柳沢昌紀・和田恭幸

好評既刊

図説 書誌学

古典籍を学ぶ

書誌学の専門研究所として学
界をリードしてきた斯道文庫
所蔵の豊富な古典籍の中か
ら、書誌学的観点から重要な
ものを選出。豊富なカラー図
版・解説を通覧することで、
書誌学の理念・プロセス・技
術を学ぶことが出来る。巻末
には「書誌学用語索引」を附
し、レファレンスツールとし
ても充実。古典籍を知る資料
集として必備の一冊。



慶應義塾大学附属研究所斯道文庫[編]

本体3,500円(+税)・ISBN978-4-585-20004-8 C1500

書誌学入門

古典籍を見る・知る・読む

「書誌学」とは、「書物」とい
う人間の文化的活動において
重要な位置を占めるものを総
体的に捉えること、すなわち、
その書物の成立と伝来を跡づ
けて、人間の歴史と時間とい
う空間の中に位置づけること
を目的とする学問である。「モ
ノ」としての書物に目を向け
ることで、人々の織り成して
きた豊かな「知」のネットワー
クが浮かびあがってくる。



堀川貴司[著]

本体1,800円(+税)・ISBN978-4-585-20001-7 C0500

江戸時代初期出版年表

岡 雅彦・市古夏生・大橋正叔・岡本 勝・落合博志
雲英末雄・鈴木俊幸・堀川貴司・柳沢昌紀・和田恭幸

本体25,000円(+税)

2011年3月刊行
B5判上製函入・712頁(うち、カラー口絵32頁)
ISBN978-4-585-10452-0 C3021

図説 書誌学

古典籍を学ぶ

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫[編]

本体3,500円(+税)・2010年12月刊行
A4判並製・224頁・ISBN978-4-585-20004-8 C1500

冊

書誌学入門

古典籍を見る・知る・読む

堀川貴司[著]

本体1,800円(+税)・2010年4月刊行
A5判並製・272頁・ISBN978-4-585-20001-7 C0500

冊

お名前 (ふりがな)

ご住所

お電話番号

勉誠出版

〒101-0051 千代田区神田神保町2-20-6 TEL:03-5215-9021 FAX:03-5215-9025
E-mail:book@bensei.co.jp Website:http://bensei.jp/

※ご記入いただいた個人情報は、ご注文書籍の発送、お支払確認および、ご希望いただいた方への刊行案内をお送りするために利用し、その目的以外での使用は致しません。

江戸時代初期出版年表

江戸時代初期の六十六年間に刊行された、
五千点を超える出版物の総合年表、ここに完成！

文学、歴史、出版史、図書館学などの研究者、図書館必備の一冊！

勉誠出版

◆ 編者一覧

岡 雅彦（おか・まさひこ）・国文学研究資料館名誉教授
市古夏生（いちこ・なつお）・お茶の水女子大学文教育学部教授
大橋正叔（おおはし・ただよし）・天理大学文学部教授
岡本 勝（おかもと・まさる）・中部大学名誉教授
落合博志（おちあい・ひろし）・国文学研究資料館准教授
雲英末雄（きら・すえお）・早稲田大学名誉教授
鈴木俊幸（すずき・としゆき）・中央大学文学部教授
堀川貴司（ほりかわ・たかし）・慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授
柳沢昌紀（やなぎさわ・まさき）・中京大学文学部教授
和田恭幸（わだ・やすゆき）・龍谷大学文学部准教授

◆ 刊行にあたって

書物は人間の思考や感情を文字の形に変えて伝える表現伝達方法で、音や色彩をかりて表現する音楽や絵画同様、先人の知恵により生み出された豊かな文化遺産である。
ある時代にどのような書物が生み出され、享受されたかをしてすることは、その時代の文化の核心に直接的に関わり合うことである。

我が国の奈良時代から現代までのどの時代にあっても、それぞれの時代に出版された書物を総合的に概観できる出版年表のようなものがあると便利だと思いがら、なかなかそのような年表に出あわない。膨大な時間を要し、また多くの調査漏れが予想されるからであろう。それでは隗より始めよということで、本書を企画した。

本書は室町末の天正十九年から江戸初期明暦末年までの約六

◆ 内容見本（原寸大）

書名	刊行年	備考	刊記	所蔵
書籍のタイトルのほかに、別題、巻次および版種、由来など、特筆すべき事項を記載。 また、「古活字版」である場合は書名の上に◎を付した。巻頭カラー口絵に収録してある本については★を付した。	主として刊記に基づいた刊行年月順に書籍を掲載。時系列に沿った出版の傾向を読み取ることができる。	覆古活字整版、入れ木、改装の指摘など、書誌学的な特記事項や、特筆すべき考察を収録。	刊行年・版元情報や、開板・出版に至る経緯など、情報量が多いため、全文の細刻掲載を心がけた。複数の刊記が掲載されている書物についても各々の刊記を収録した。	該当書物の所蔵者を掲載。利便性を鑑み、所蔵機関ごとの請求番号を掲載。所蔵が不明、閲覧が困難なものに関しては、掲載図録名などを紹介。
s 慶長五庚年（一六〇〇）				
十卷八冊				
◎貞観政要（伏見版）	〔著者〕（唐）呉兢撰、（元）戈直集論 〔刊記〕唐太宗文皇帝創業守成一代英武之／賢君也千載之下仰其德慕其風者今之／内大臣家康公是也故令前学校三要老／禪校訂貞観政要去歳開家語於板今歳／刻政要於梓遵聖賢前軌而作国家治要／宜也／（豊国大明神際辞下土之日受／令嗣秀頼幼君賢佐遺命爾来寛厚而愛／人聡明而治衆不異周勃霍光安劉氏輔／昭帝也矧又海内弘此書而協和士民之／心則為／明神不忘旧盟為／幼君尽至忠者其用大矣哉）／慶長五年星嶺庚子花朝節／前龍山見鹿苑承兌叟謹誌／慈眼久徳刊之			◎Doctrina Christiana〈おらしよの翻訳〉 （キリシタン版、国字本） 一冊 〔刊記〕（扉）おらしよの翻訳／（右）慶長五年三月上旬／（左）付きりしたん教の条々。DOCTRINAE CHRISTI- / anae rudimenta, cum alijs pijs Orationibus / NAGASAQVI EX OFFICINA / Goto Thome Soin typographi Societatis IESV. / Cum facultate Ordinarij, & Superiorum. / Anno 1600 〔所蔵〕天理198・21417（雄松堂影印）（▲集影512） 〔備考〕出版地・長崎
〔所蔵〕内閣別2513。同別2512。同2861121。 （▲集影4113、内閣）。國學院貴112。国文研ワ215（三・四欠）。国会WA7175。大英。米沢図書35。『弘文荘古活字版目録』図版10。安田文庫『古活字版の研究』図版19。『訪書余録』図版8の2				
〔備考〕（ ー ）内を除去した別本もあり				
◎Royei Zafit〈倭漢朗詠集〉（キリシタン版、国字本） 上1冊存				
〔著者〕藤原公任撰				
◎DOCTRINA CHRISTAN〈どちリーナ・キリシタン〉 （キリシタン版、国字本） 一冊 〔刊記〕（扉）とちりなきりしたん／（右）これきりしたんの／（左）				

◆ 本書の特徴

- ・天正十九年（五九二）明暦末年（六五七）に刊行された五千点超の書物を掲載。
- ・刊行された年月順に構成。刊行年月は、主として本の刊記に基づいた。[※]
- ・各書物について、「書名」「著者」「刊記」「所蔵」「備考」の項を設けた。
- ・巻頭にカラー口絵を掲載。貴重な書籍図版を32頁にわたって収録した。
- ・利便性を鑑み、「書名」および「版元名」索引を附した。
- ・このような形で江戸時代の出版物をまとめた書籍はこれまで刊行されておらず、まさに画期的な一冊となっている。

※刊記（かんき）：和漢の刊本で、出版の年月・所・刊行者など、出版に関する事項を記した部分。
現代の奥付や洋書の標題紙に相当する。（広辞苑）

十年間に出版された書物のうち、刊記を備えて刊年の分かる書物を年月順に並べた出版年表である。

初めの天正十九年は、日本で初めて活字の印刷が行われた年であり、時代を区切る大きな意味をもつ。また、終わりの明暦末年は、出版文化の趨勢が大きく展開する時期であり、また六十年という期間は身の丈に合った、実際に調査実行可能な期間でもあった。さて、本書を「出版年表」と銘づったものの、本書は大きな問題を孕んでいる。

近世初期は活字印刷が一気に進み、多くの人々が書物の印刷に参画したが、本屋業が十分に発達していなかったため、その初期においては出版物に刊年や書肆名を明記する習慣がまだ未熟であって、巻末に刊記のないものが多く存在している。
また、初期の古活字本は流行した時期が限られ、無刊記のもの

でもその字体などからおおよその刊行時期は推定できるが、無刊記本の整版本の刊年推定はむずかしい。板本は年月をかけて何度も何度も刷り増しされるので、初版の刊年推定は至難の業である。そのようなわけで、本書では刊記を有する書物を年月順に配列し、無刊記であっても序跋や書き込みなどで刊行時期がほぼ推定できるものを、参考の意味で掲げることとした。基準となるべき有刊記本の刊行状況を確定することで、それとの対比において無刊記本の位置づけが可能になってくると思われる。

本書は大海の一滴の雫のようなものであるが、江戸初期の文化の本質を考える資料として此の上もなく有益なものであると思われる。また、本書を呼び水として、全時代の出版年表作成の動きが起こればありがたいことである。

編者識